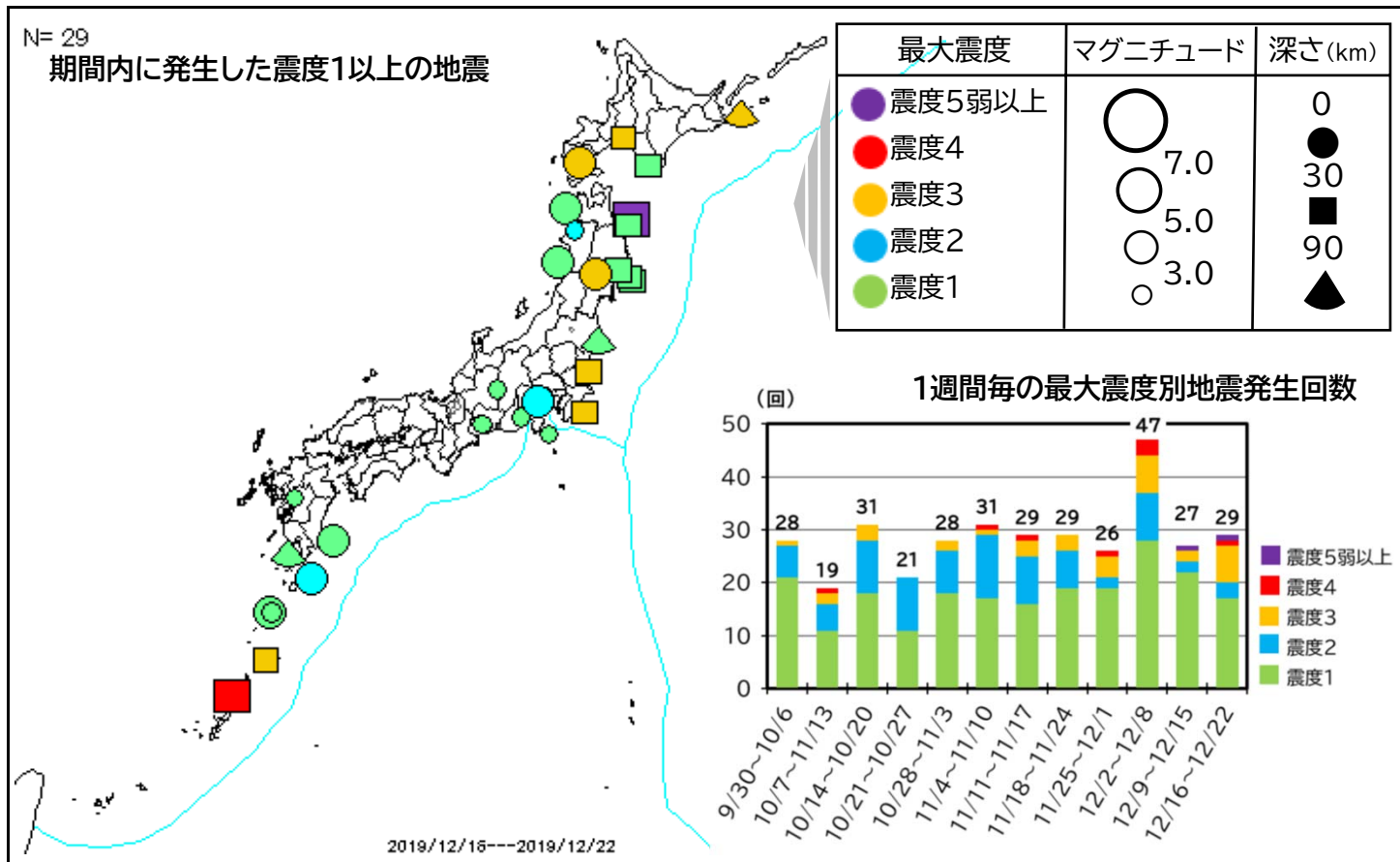


青森県で震度5弱 奄美群島で震度4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間中、震度1以上の地震が29回発生。このうち震度5弱が1回、震度4が1回 ■
- ・ 12月18日08時35分に沖縄本島近海で発生した地震(M5.1、深さ47km)により、鹿児島県知名町などで最大震度4、奄美群島から沖縄本島地方にかけて震度3~1を観測。この地震は、沈み込んだフィリピン海プレート内部で発生した逆断層型。
- ・ 12月19日15時21分に青森県東方沖で発生した地震(M5.5、深さ50km)により、青森県階上町(はしかみちょう)で最大震度5弱、北海道地方と東北地方で震度4~1を観測。この地震は、青森県が属する北米プレートの下に沈み込んだ太平洋プレート内部で発生した正断層型で東日本大震災の余震。

トピックス

- 東南海地震と南海地震と半割れ地震 ■
- ・ 1944(S19)年12月7日に東南海地震(M8.2)が発生。熊野灘沿岸に6~8mの津波が来襲し、死者・行方不明者1,251人の大きな被害を伴った。その2年後の1946(S21)年12月21日に南海地震(M8.4)が発生。三重・徳島・高知県沿岸に4~6mの津波が来襲し、死者・行方不明者 1,443人の大きな被害を伴った(被害は日本被害地震総覧による)。
- ・ この2つの地震は、想定されている南海トラフ巨大地震の静岡県~九州にかけての想定震源域内の東半分と西半分を時間差をもって発生したものであり、同様な事例が過去に幾度か発生している(1854年には東側で東海地震(M8.6)が発生した32時間後に西側で南海地震(M8.7)が発生)。
- ・ このように、想定震源域内の半分の領域で大規模地震が発生した後、ある程度の時間差をもって残りの半分の領域も連動して大規模地震が発生する状態のことを、想定南海トラフ巨大地震で話題となっている「半割れケース」と呼んでおり、上記2例の、それぞれの地震は互いに、「半割れケース」の関係にある。
- ・ 想定されている南海トラフ巨大地震でも、想定震源域全体が一斉に割れるだけではなく、震源域全体の東西いずれかの半分だけが割れた地震の後に、残りの半分が割れる地震が発生することも想定されている。
- ・ 最初の半割れケースに該当する地震が発生した場合には、次の地震発生に備えるための情報が気象庁から発表される。
- ・ 被害発生が想定される市町村では、この情報が発表された際に必要となる避難場所や経路などの防災行動の策定を年度内を目途に進めている。